

どうすれば、差別や偏見を なくせるの？

～人権侵害の歴史を考える～

精神障害といえば、かつては、「統合失調症」（2002年までは「精神分裂病」）が代表的な疾患とみなされ、正しい知識が普及してこなかったことから、「何を考えているかわからない」「怖い」などのイメージをもたれ、長い間、差別や偏見の対象となってきました。その結果、病院などに閉じ込められる生活を余儀なくされてきた人々がたくさんいます。

精神障害がほとんど知られていなかった時代

明治時代の初めまで、日本には精神障害のある人のための法律や制度はまったくありませんでした。精神病治療の医学も進歩していなかったので、医学的な治療のかわりに、お祈りやお祓いはらいをされたり、お寺などに閉じ込められたり、さらには放置されてしまう場合もありました。このような状況は、日本だけでなく世界中でみられ、ヨーロッパでは、15～16世紀に各地に収容施設ができたり、16～17世紀の魔女狩りで精神障害のある人も犠牲になりました。一方では、霊と交信するというシャーマンのような役割を担うとされることもあります。

このように精神障害のある人は、ときには迫害され、ときには神秘的な存在として、人々の日常生活から一步離れた世界に置かれることがありました。

「閉じ込め」という人権侵害の歴史

医学が進歩し、精神障害の治療や対応方法が普及してきた現代でも、長期間の入院など、病院中心の生活を送っている人が日本にはまだ大勢います。もっと昔には、家族が、人々の目から隠すため、家の中から出さないようにしたこともありました（「私宅監置」といいます）。

精神障害のある人のための法律として「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」（精神保健福祉法）があります。この法律の原型ができた1950年ごろにはすでに、隔離したり閉じ込めたりせずに、地域で一緒に暮らす権利があるという考え方が生まれてきていました。

しかし、1960年代に、駐日米国大使が、精神障害のある人に刺されてけがをするという事件が起こり、社会で大きな問題となりました。この事件は精神障害のイメージに大きく影響し、地域行政の相談機関が設置されるなどの法制度改革の一方で、強制的に入院させる制度（→入院形態；p.35）が促進され、全国各地で、多くの精神障害のある人が強制入院をさせられました。

いまだに、このような時代のなごりが残っている現状があるのです。

ひとつの事件が日本中に影響したのね…



“30年遅れている”と国際問題にもなった 日本の制度や政策

現在、先進諸国の中で、日本の精神科の病床数（入院用のベッド数）は人口に対して世界で最も多く、入院期間も最も長くなっています。また、精神科病院の閉鎖的な環境の中では、精神障害のある人の人権が侵害される事件がくり返されてきました。精神科病院では、ほかの診療科よりも医師や看護

師の数が少なくてもよいという決まり（医療法のいわゆる「精神科特例」）があり、十分なケアが受けられない場合もあります。

こうした日本の現状は、国際的にも問題視されてきました。先進諸外国が精神科病院を減らして、精神障害のある人が地域で安心して暮らせるような制度を推進しているのに対し、日本はまだ入院という方法に頼っているからです。このような現状に対して、1968年には世界保健機構（WHO）から、1985年には国連から、精神障害のある人のための法制度を改善するように勧告を受けました。しかし、多くの精神科病院は今も存続し、たくさんの人々が入院生活を送っています。

2002年に、政府は「精神科病院に長期入院をしていて、条件が整えば退院可能と思われる約72,000人の人々について、10年以内の退院と社会復帰を目指す」という内容を盛り込んだ「新障害者プラン」を打ち出しました。閉じ込めの歴史に終止符を打つべく、画期的な内容でしたが、その目標はいまだ達成されていません。

また同年、「精神分裂病」の名称が「統合失調症」に変わりました。全国の精神障害のある人の家族の会が中心となり、『『精神分裂病』は、人格を否定する病名で、偏見や差別につながるので変えてほしい』とはたらきかけ続けた結果です。

差別と偏見をなくすために必要なこと

病院や施設ではなく、自分が暮らしたい地域で自分らしい生活を送るという考え方が徐々に浸透してきている一方で、現代においても、長期入院を余儀なくされている人々や、精神障害に対する誤った理解から、差別や偏見に苦しんでいる人々が多くいます。精神障害のある人や家族の人たちは、この現状をどのように思っているのでしょうか。

● 当事者の意見から

統合失調症のある子どものお母さん



事件の報道で、「容疑者は精神科に通院歴あり」などと言われると、知識がない人は、とても怖い病気とってしまうんじゃないかしら。病気のない人だって事件を起こすのに……。メディアの偏った伝え方は、誤解を招くのではと心配だわ。

うつ病で休職し、クリニックの復職プログラムを利用中

ボクはね、“精神障害”という呼び方がそもそも誤解を与える気がするんだ。統合失調症もうつ病も脳の神経の疾患で、よくするためのお薬を飲んでいるんだから、精神障害ではなく“脳疾患”と言ってほしいな。



統合失調症で通院しながらアルバイト中



「無知は罪なり」って言葉があるけど、精神障害の正しい情報が知られていないから、差別や偏見が生まれると思うの。学校や会社で、精神障害についてきちんと教えてほしいわ。だれでもなる可能性がある病気なんだから。

昨今、地域や学校で、精神障害について正しい知識を広めるための普及啓発活動などの取り組みが、少しずつ増えてきました。統合失調症やうつ病などにかぎらず、精神障害の対象が広がるなかで、医療や福祉サービスをスムーズに受けられるよう、差別や偏見をとりのぞくプログラムの普及が期待されています。

当事者とふれ合うことで 精神障害への理解を深めよう
～学校の授業のゲストスピーカーに～



精神障害について理解を深めるには、実際に、精神障害のある人と接して話を聞くのがいちばんです。学校教育にカリキュラムとして取り入れて、正しい知識を得ることが、差別や偏見をなくすことへの第一歩となります。